



おやすみ前に おはなしひとつ

令和2年2月発行 熊取町立熊取図書館

5～6歳むき

一人で本を読めるようにしたいと思いませんか？

せっかくこれまで絵本に親しんでいても、まだ字をすらすら読めないこの時期に、無理に一人で読ませてしまうと、子どもは本が嫌いになってしまいます。

幼児期に一番大切なことは、「本は面白いもの」「本は楽しいもの」と思えるようにすること。どうかもう少しの間、子どもと本を楽しむ時間を作ってください。

毎晩少しずつ読むのに、ぴったりな本を紹介します。



「チャールズのおはなし」

ルース・エインズワース／作
菊池 恭子／絵
福音館書店

何でも集めるのが大好きな、小さな男の子チャールズ。12のお話は毎晩読むのにぴったりです。最後の「なにがはえてくるのかな？」は、楽しい夢を見るためのおまじないのお話で、眠る前の習慣になりそう。



「くまのテディ・ロビンソン」

ジョーン・G・ロビンソン／作・絵
福音館書店

テディ・ロビンソンは、抱き心地のいい、ぬいぐるみのくまさんです。小さな女の子デボラとは大の仲良し。二人の可愛らしく、楽しいお話が7つ入っています。このシリーズは、他に4冊あります。

「こぎつねコンチ」

中川 李枝子／作
山脇 百合子／絵
のら書店

きつねの男の子コンチのお話が12編。母の日に小石や枝をプレゼントするお話など、お母さんとのやり取りがほほえましい。

「たなばた」「十五夜」など季節感を感じられるお話になっていて、どれも短いので初めての物語にぴったりです。



「ふたりはともだち」

アーノルド・ローベル／作
文化出版局

がまくんとかえるくんは、とても仲良し。「手紙をもらったことがない」と悲しむがまくんのために、かえるくんが大急ぎで手紙を書く「おてがみ」など、短いお話が5つ。シリーズで他に3冊ありますが、どれもおかしな味わいがあり、大人にも人気です。